

ごあいさつ…………… 東京都知事 青島 幸男 1

まえがき…………… 東京都農業協同組合中央会会長 加藤 源 蔵 3

第I章 家畜からみる江戸・東京の歴史

★古代の武威国

1	古代の東京都心は酪農の中心地だった……………	14	土は人、石は舟、石灰は馬	18
	上流階級が好んだ乳製品	14	馬の名前がつけられた繁華街	19
	清潔で経済的だった古代酪農	15	〈ビジュアル〉動物の名のついた地名……………	20
2	「多摩の横山」は名馬の産地……………	16	4 平和な時代を象徴する「生類憐みの令」……………	22
	朝廷に贈られた多摩の馬	16	あらゆる方法で犬を保護	22
	伝統ある府中の馬市	17	5 先進的な動物保護・管理の政策	23
			自然環境保全法を先どりしたお鷹場……………	24
			日本橋から半径二〇キロは將軍の鷹場	24
			厳しい規制で自然が守られた	25
3	馬がつくった大江戸八百八町……………	18	6 將軍が牧場を開き、牛を飼う……………	26
			外国の種馬で日本馬を改良	26
	★江戸に幕府がおかれて			

外国の牛を入れて酪農を再建 26

7 蘭学の普及で肉食が始まった…………… 28

山くじらと紅葉 28

豚と鶏を飼った新選組 28

★近代日本の出発

8 ハリスをもてなすお吉の牛乳集め…………… 30

牛乳をめぐるハリスと奉行所の交渉 30

横浜開港と牛乳 31

9 刀を捨てて牛乳バケツを持った武士…………… 32

麴町一帯に乳牛牧場が開く 32

殿様も歌人も牛飼いに 33

〈ヒジュアル〉 明治一九年、東京の都心部に…………… 34

こんなに牧場があった…………… 34

10 養豚で支えられた教育と学校…………… 36

農民たちが自前でつくった学校 36

鶏の卵や果樹の売上げも教育費に 37

★戦争と家畜・動物

11 戦場に駆り出された家畜…………… 38

四〇万頭以上の馬が海を渡った 38

18 日中国交回復と北京ダック…………… 52

パンダに続いて、あひるがやってきた…………… 52

軍用動物は馬ばかりではなかった 39

12 戦争の犠牲になった東京の動物…………… 40

野生化した小笠原諸島の家畜 40

処分された動物たち 41

13 食料難時代の家畜たち…………… 42

家畜のエサまで人間が食べた 42

敗戦直後の都民を支えた家畜たち 42

★都市の発達と畜産

14 「豚小作」「牛小作」からの脱皮と農協…………… 44

豚や牛を貸した側は損をしない仕組み 44

農協の誕生により畜産が発展 45

15 工場のような畜舎に入った家畜たち…………… 46

有畜農業から「近代的」畜産へ 46

最新式「工場」に殺到した見学者たち 46

16 裁判にかけられた鶏…………… 48

畜産農家への警告という側面も 48

都市のオアシスとしての牧場 49

17 新天地を求めて家畜の大移動…………… 50

自給飼料を作る、きれいな牧場に…………… 50

一貫経営や規模拡大 51

東京の農協・農家の中国との交流…………… 53

〈コラム〉動物にまつわる格言・ことわざ…………… 54

第二章 東京から広がった乳肉卵食と畜産

1 欧米の家畜品種は東京から全国へ…………… 56

試験研究と農業教育のスタート 56

2 明治のグルメ街道・牛鍋屋大繁盛…………… 58

牛鍋屋の開店ブーム 58

西洋料理を食べさせる店 59

3 国・学者・マスコミあげて牛乳のPR…………… 62

牛乳は乳母代わり 62

当時の牛乳一本は巡査の月給の1% 63

4 広がる牛乳の利用…………… 64

技術開発とミルクキャラメルの登場 64

伊豆諸島でのバター・煉乳作り 65

5 学校給食に牛乳を…………… 66

健康と体位向上のために 66

6 国内産のおいしい生乳へ…………… 67

肉食の広がりを支えると、場の始まり…………… 68

安全な肉の供給と公正な取引をめざして…………… 68

都民に親しまれた芝浦と場 69

肉をやわらかく、風味よくする技術 69

7 乳量世界一の牛を育てた八丈島…………… 70

エンヤラ大島、子牛育てて日を送る…………… 70

モーと豊かな三宅島 71

来てみりゃ八丈島は記録島 71

8 東京湾ミルクロードと多摩ミルクロード…………… 74

〈コラム〉伊豆諸島の名物は牛…………… 73

都心から放射状に牧場の大移動 74

トウキョウ・ベイ・ミルクロード 74

シルクロードはミルクロード 75

一一〇年続いた四谷軒牧場 76

〈コラム〉日銀も三井財閥も乳牛を飼っていた…………… 77

9 養豚と野菜が結びついた北多摩の農業…………… 78

豚吉どんが豚購うた 78

養蚕から有畜農業へ 79

10 南武線に乗って養鶏がやってきた…………… 80

産業としての養鶏 80

養鶏組合の力で発展 81

11 広く農家に入った副業畜産…………… 82

有畜農業による経営の多角化 82

リサイクル畜産と独特な飼い方 82

12 躍進した東京の畜産…………… 84

昭和三〇年代に復活 84

規模拡大と協業化 85

13 畜産振興に取り組む行政と研究機関…………… 86

品種の改良と成果 86

東京独特の畜産振興 87

家畜の衛生対策と技術普及 88

都民に開かれた試験場へ 88

14 大東京に畜産の産地を育てた農協…………… 89

すぐれた乳牛を求めて北海道へ 89

豚の品種をいち早く欧米から 89

卵の生産に鶏肉を加えて 90

おいしいイノブタ肉の生産 92

東京の酪農を盛り上げた専門農協 92

15 農場産牛乳を使った手作りアイスクリーム 93

畜産振興を支える影武者・経済連…………… 94

肉豚の出荷と子豚の購入 94

鶏卵の出荷と外国鶏の輸入 95

乳牛の購入と肉用子牛の生産 95

飼料の取扱いがもたらした経営の安定 96

〈コラム〉農協が造ったハム工場…………… 96

16 農業高校が生んだ畜産リーダー…………… 97

先進的な飼育と研究 97

超大規模な畜産家 98

〈コラム〉東京の大学での畜産教育…………… 99

〈ビジュアル〉
全国でトップクラスの家畜の飼育規模…………… 100

第三章 乳・肉・卵の生産技術の発展——東京畜産の努力

一 有益な家畜はこうしてつくられた

乳を一年中飲むための努力 103

鶏・豚・馬なども改良 103

〈コラム〉日本最古の家畜は「縄文犬」…………… 104

二 乳牛

1 豊乳美人のホルスタイン…………… 105

ジャージーとホルスタイン 105

乳をたくさん出し、体格もよい 105

都有牛制度で復活した東京の酪農 107

2 草・ワラを宝に変える乳牛のエサ…………… 108

牛の胃の働き 108

区内の専業経営と多摩地域などの複合経営 109

専業化の進展と急増する飼料の輸入 110

3 人と牛が心を合わせて搾乳…………… 110

牛の体内で牛乳ができるまで 110

搾乳方法の移り変わり 111

4 年間乳量一〇〇〇キロから一万キロへ…………… 113

交配と飼料の工夫 113

一五年間で約八倍に増加 113

東京都の検定事業 115

5 容器も殺菌方法も大きく変わった…………… 115

はかり売りから紙パック流通へ 115

生乳から高温殺菌へ 117

三 豚

1 胴長でお尻の大きな豚へ…………… 118

味より経済性を優先 118

美豚コンテストで金賞！ 120

2 何でも食べて貴重な肉をつくる豚…………… 121

さつまいもや残飯で飼われていた 121

配合飼料中心の養豚へ 122

3 清潔好きな豚の豚舎・環境づくり……………122

ひさし養豚からデンマーク式豚舎へ……………122

エサや水の与え方、糞尿処理などの工夫……………124

〈コラム〉子だくさん母豚の巧妙な子育て……………125

4 おいしく、生産効率のよい豚「エド」の育成……………126

系統造成の開始……………126

苦勞を重ねてつくられた「エド」……………126

四 鶏

1 毎日卵を産ませたい……………128

姿や声の美しさを楽しんだ……………128

産業としての養鶏へ……………129

熱心に改良を進めた東京都……………129

2 世界に貢献したひなの雌雄鑑別……………131

器用な日本人ならではの肛門鑑別法……………131

東京から広がった羽と機械による鑑別……………132

3 クズ米から配合飼料に変わったエサ……………133

雑穀中心に身近なエサで育った鶏……………133

配合飼料の品質を高める努力……………134

4 ささまざまな孵化の方法と飼い方……………135

人工孵化の進歩……………136

平飼いからケージ養鶏へ……………137

生産工場化養鶏V S 自然養鶏……………138

5 伝染病との闘い……………139

ニューカッスル病・伝染性気管支炎の流行……………139

予防体制の確立……………140

6 むかしながらの味・東京しゃも……………141

卵をよく産み、肉もおいしいしゃもの育成……………141

東京しゃもに注目した鳥料理屋……………142

〈コラム〉畜舎を建てるには……………143

警察署長の許可が必要だった……………143

〈コラム〉高価な肉と卵の烏骨鶏……………144

五 肉牛・羊・山羊・うさぎ・蜜蜂

1 肉のおいしい和牛を育てる……………145

鳥取から七日がかりで子牛を運ぶ……………145

子牛が育つ島……………146

2 毛糸に肉に葉に広く役立つ羊……………147

わが家で飼って、わが家のセーター……………147

東京都内に約三〇の綿羊組合……………147

地域おこしにも一役かう……………148

3 食糧不足時代の健康の守り手・山羊……………149

大都市から飼育が広がった……………149

増産と品種改良に努めた山羊農協……………149

4 かわいいうさぎも貴重な家畜……………151

家畜の世話と学習はうさぎから……………151

毛皮から実験用まで……………151

5 東京でも蜜蜂が飼われている……………152

〈コラム〉うさぎにかけられた税金……………154

六 畜産の技術革新への取組み

1 経済的な鶏をつくる……………155

生存率が高く多産の外国鶏……………155

能力の高い国産鶏をつくる……………156

外国鶏に追いついた東京の鶏……………156

2 能力の高い家畜を増やす人工授精と精液冷凍保存……………158

第四章 人と動物と環境の調和

1 馬は家族の一員だった……………168

台所の一角にあった馬屋……………168

馬にも戸籍や地誌があった……………169

嫁より大事にされた馬……………170

自然交配から人工授精へ……………158

農家のお母さんの授精師も活躍……………159

種オス牛の確保に努力した東京都……………160

精液の冷凍保存……………160

〈コラム〉家畜の交配と授精、あれこれ……………161

〈コラム〉牛の精液を背負って鳩よ飛べ……………162

3 バイオテクノロジー技術の可能性……………163

受精卵の移植……………163

体外受精……………164

受精卵の分割・クローニング……………164

4 家畜の糞尿を土を肥やす宝に……………165

糞尿処理が経営を圧迫……………165

土作りに堆肥が見直されてきた……………165

東京都の有機農業堆肥センター……………166

- 〈コラム〉馬や牛のいる暮らし…………… 171
 2 物と人の運搬の主役・馬…………… 172
 庶民の交通機関 172
 一分間に一台以上が発車した馬車鉄道 173
 3 牛と馬が支えた農耕…………… 174
 “勤勉な労働者”とのコミュニケーション 174
 全国大会で優勝した東京の牛と馬 175
 4 庶民信仰と動物たち…………… 176
 馬に感謝し、供養する 176
 馬の縁で男女が結ばれる 176
 牛と豚と鶏の供養塔 177
 〈ピジュアル〉家畜への感謝、供養など…………… 178
 思いやりの碑やレリーフ…………… 178
 5 案山子と鹿威しがある風景…………… 180
 目黒の案山子 180
 動物と共生してきた先人たち 181
 6 野ねずみを駆除した、私たち…………… 182
 稲を野ねずみから守った高床 182
 生態系のバランスに配慮しつつ天敵を導入 183
 7 自然の回復を願う放鳥の取組み…………… 184
 野生鳥獣の保護の歩み 184
 人工繁殖と放鳥に努める東京都 184
 野生鳥獣の保護と被害の防止 185
 8 大都市で馬と親しむ…………… 186
 現代の東京で活躍する馬たち 186
 江戸のリサイクルを受けつぐ人びと 187
 9 ちびっ子農業教室になった牧場…………… 188
 牛に大はしゃぎする子どもたち 188
 家畜とふれあった子どもたちの作文から…………… 188
 10 家畜が支える有機農業…………… 190
 果樹園の下は鶏天国 190
 広がる合鴨農法 191
 11 安全でおいしい卵や乳製品を食卓へ…………… 192
 人気を集める直売や手作り乳製品 192
 〈コラム〉医学の発展に貢献する家畜…………… 193
 〔座談会〕江戸・東京の家畜と市民の生活…………… 194
 『江戸・東京暮らしを支えた動物たち』年表…………… 200
 参考文献…………… 205
 編集委員・執筆者、写真・資料提供および協力者…………… 207